

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800226		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームたるみ中道		
所在地	神戸市垂水区中道6-1-8		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先			

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	CS神戸調査センター		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成27年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人全体の理念である「自分の親に受けさせたい介護」「自分自身が受けたいと思える介護」「子供たちに継承してもらえ施設」という3つの理念を遵守し、スタッフが協力し合って取り組んでいる。
一人ひとりに応じた対応を、その人らしい生活が送れるよう支援するとともに、ご家族様とも連携をとって、ご本人、ご家族ともに安心して頂ける支援を心がけている。また、医療のニーズがある場合はご家族にお任せするだけでなく、ホームとしても可能な限り柔軟に対応し、早期に健康が回復するよう努めている。
ホームでの看取りを経験し、その過程で他職種間の連携をしっかりと築き、また職員が協力し合って最期まで看取ることができた。今後もホームで最期まで過ごして頂けるよう、取り組んでいく。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・かにすき鍋をつつきたい、お好み焼きを食べたいといった利用者の会話を聞き取り、月3回予定の食事レクに組み入れている。10人以上の家族が参加する運営推進会議の機会に掲示している、食事レクや朝の体操時の利用者の笑顔をおさめた写真は、家族の喜びと安心を紡ぎ出すのに一役買っている。・事業所は住宅街にあり、近隣住民の利用者が多く、地域との結びつきはよい。毎日通ってくる家族もあり、玄関先に鉢植えの季節の花々を提供してくれるボランティアもいる。自宅の一室がまるで事業所の中にあるような、親しみが生まれつつある。・医療依存が高い利用者に対しては、24時間体制のかかりつけ医や訪問看護、近隣薬局の薬剤師等と連携がしっかりとできています。開設1年目だが、未経験の職員が安心して働ける環境が形成されつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議において、「地域に密着した介護サービスの運営方針」を作成している所である。	法人理念として、「親に受けたいと、自分自身が受けたいと思えるサービス、今の子どもたちに自信をもって継承してもらえる施設」を掲げ、壁などに掲示している。理念の実践に向け、職員全体で話し合い、具体的な意見の統一を図ろうとしている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校での夏祭りに参加した。また、近隣にお住まいの方が複数ご入居されている。自治会長とも連絡を取り、運営推進会議にご参加頂いている。	垂水区のボラティア・センター等へ申し込んでいる。銭太鼓、フォークソング、ヒーリングソング等のボランティア団体の来訪が利用者に笑顔を誘う。入居者は近隣の方が多く、近所づきあいをしながら家族の訪問が毎日のようにある。自治会には加入していない。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居とは関係なく、ご家族に認知症をお持ちの人がいて、生活する上で困っている方のお話を伺っている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、近隣住民の方に対し日頃の取り組みをご報告すると共に、広くご意見を頂いている。ご意見をもとに施設の備品を購入したり、外出支援の実績をわかりやすくお伝えしている。	10名の家族、地域住民代表、あんしんすこセンター、知見を有する者等が参加する。管理体制、イベントの実施状況などの報告がある。参加家族全員が必ず一言ずつ話す機会がある。毎回、利用者の笑顔ある日々の姿をA4判の写真で家族に見せ、大変喜ばれている。	10名余の家族が集まる運営推進会議はあまり例がありません。この状態が継続することを期待します。この会議の前後に時間を工面し、家族だけが集まる「家族の集い」を短時間でも催されるように働きかけてはいかがでしょうか。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者に、ホームの運営について相談をしている。具体的なアドバイスを頂いている。また、実地指導を受け、そこでご指摘頂いたことに取り組み、結果をご報告している。	昨年の10月には神戸市の実施指導を受けた。服薬管理等の確認等指摘事項もあったが、事業所としての利用者へのケアの努力に対し高い評価を受けた。この機会を通じて、具体的な対策などについて神戸市の指導も仰ぎたいとも考えている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を含めた虐待防止研修をすべての職員が受けている。	入職時にはテキストに則って必ず研修を行う。身体拘束に関する同意書を準備しているが、これまでに身体拘束を行った事例はない。拘束しなければケアできない状況があったが、ケアや声かけで工夫して、拘束を避けたことが職員たちの拘束排除の自信にもつながった。	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を実施すると共に、高齢者虐待防止委員会を設置している。	1～2名の構成からなる虐待防止委員会をたちあげている。不定期ではあるが職員の疲労やストレスが利用者のケアに影響していないかどうか留意して面談している。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時の新入職員研修で権利擁護、成年後見制度について学ぶ機会を設けている。また、成年後見を受けておられるご入居者様の後見人およびご家族様と連絡をとっている。	入居者の内1名が成年後見人制度を利用している。今後も利用を希望する者ができると考えられ、少なくとも幹部職員や運営推進会議の参加者には基礎的な知識を学ぶ機会を設けたい。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、および改定時には口頭または文書にて説明し、ご理解頂くようにしている。原則として契約書等を全て読み上げ、適宜ご質問を伺っている。	契約時には契約関係の書類(5種類)を全て、約90分をかけて読み上げ説明している。特に、医療度の必要性が高くなってくる場合を想定して、事業所としてできること、できないこと等を明確に説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において広く意見を伺うほか、日頃よりご家族が来訪された際には積極的にお話を伺うようにしている。	玄関にはご意見箱を置いているが、これまで意見の投かんはない。運営推進会議には多くの家族が参加しており、一人ずつ何か一言でも意見を聴く機会としている。家族の訪問は多く、職員とは気楽に話ができる関係と環境が生まれつつある。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員面談を実施するとともに、職員全体会議を開催して広く意見を聞いている。また「改善提案シート」を使って、職員が自由に提案できるようにしている。	管理者は、月1回、職員と約30分面談を行い、課題や虐待行為になる要因の発見等に努めている。職員全体会議は月1回開催し、運営・利用者の状況等を話し合っている。職員の負担が大きくなる要因を明らかにし、ケアカンファレンスにつなげ、改善を図った事例などがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤明けの翌日は公休日にし、遅出勤務の翌日は早出勤務を入れないなど、勤務する上で体力的な負担がかからないように配慮している。また、要職の社内公募制度を通じて、目標を持って業務に取り組めるような環境にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダーから職員の技量につき目聞き取りを行うとともに、代表者もケア業務にあたることで、職員の力量の把握に努めている。また、慣れない業務のある職員には力量あるスタッフとペアを組んで業務に当たりようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内での事業所交流会や研修に参加し、情報交換および自己研鑽を積む機会を設けている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約締結前に行うご家族からのヒアリング、およびご本人との面談を通じてニーズを把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約締結前に行うご家族からのヒアリングおよび面談を通じて関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にご本人にとって最も適したサービスを紹介するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が主体となれる支援を心がけ、ご本人の能力に応じて、日常的な家事等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にご参加頂くよう働きかけている。また、ご入居者様の求めに応じて電話連絡を行ったり、来訪をしていただくなどして、関係を築いている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの囲碁教室に通われたり、かかりつけ医を受診されるお手伝いをするなど、支援に努めている。	馴染みの囲碁教室への通いを職員が付き添っている。利用者の一人が近隣の喫茶店の親族であったことがきっかけとなり、複数の利用者がその喫茶店を利用するようになった。また、馴染みの美容院の利用を継続的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご入居者様の個性や性格を把握し、ご入居者様同士の関係が築いていけるよう介入している。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去によりご利用が終了した後も、ご家族が地域の住民として、運営推進会議に参加して頂き、ご意見を頂戴した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	予めご入居前にご本人およびご家族からご意見を伺い意向の把握に努めている。困難な場合は、特にご家族からのご意向を尊重している。	アセスメントの段階で本人、家族より、それぞれの思いや意向を確認している。言葉では伝えられない利用者に対しては、日々の暮らしの中で、表情、行動等から現れる変化を見逃さないよう注意深く観察し、職員全員、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面談において、現在の生活状況や、これまでの生活歴を詳しく聞き取り、馴染みの関係、生活環境等の把握に努めている。またご入居後も生活歴を聞きだせるようご家族やご友人とコミュニケーションを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子、体調の変化を観察、記録している。そして申し送りによって職員間で情報の共有をしている。また、医師、看護師とも情報の共有ができるような連携をしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	予め関係者からの情報を収集し、ケアカンファレンスを開催し、課題とケアのあり方について、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常生活動作から必要となるニーズへの対応について、担当者会議で、計画作成担当者を中心に職員で話し合っている。現状に合っているかについてモニタリングを実施し、介護計画の見直しを3ヶ月ごとに行っている。状況の変化等には期間に関係なく検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに日々の様子や気づきを記録し、出勤時に確認するようにしている。様子の変化や気づきは計画作成担当者に報告し、以後のケアの内容を検討するよう、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診時に、ご家族のみでの対応が難しい場合の送迎や付き添いを行っている。必要物品の購入につき、要望があれば立替購入をしている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアに花の手入れをしてもらい、ご入居者様にも水遣り等していただいている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、事業所の提携医療機関のほか、これまでのかかりつけ医を利用して頂くことも可能としている。ご本人の希望する医療機関を受診することを前提としている。	近隣の利用者が多く、近隣にある24時間体制のかかりつけ医を希望する方が多い。通院介助は家族の付き添いを基本とするが、緊急時や家族の付き添いができない場合、事業所が支援している。法人の訪問看護とも連携を密に図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は週に1回事業所を訪問し、ご入居者の健康管理、健康チェックを行っている。また、報告、連絡、相談がスムーズにできるように電話連絡および「医療と介護の連携シート」を使って連携をとっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内の地域連携室との情報交換や相談を通して、ご本人の状態の把握に努めている。また、退院前に病院関係者とカンファレンスを行うとともに、それに基づいたミーティングを施設職員間で実施し、スムーズな再入居を図っている。	利用者が入院された時は、お見舞いや安否確認等こまめに伺うとともに、病院関係者と情報交換し、いつ戻られてもいように準備している。退院時には病院関係者、家族、地域連携室、訪問看護等とカンファレンスを開き、スムーズに退院できるよう、支援している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を定めている。入居時に本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者主にかかりつけ医とチームで支援に取り組んでいる。	契約書の中に看取りに関する方針があり、契約の段階で丁寧に説明している。重度化された場合等、本人、家族の気持ちの変化に添えるよう、支援している。看取りはこれまでに1例経験したが、主治医、訪問看護、職員が、一体となって、最善をつくすよう取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に市民救命士講習を受講している。また、利用者の急変や事故発生時に、かかりつけ医および訪問看護に連絡を入れる体制ができています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時に備えるため、避難訓練を年に2回実施している。その内、1回は日中、もう1回は夜間を想定した訓練を行っている。	防災委員が主体となって、火災訓練を実施した。昼間と夜間の想定で、年2回実施し、利用者も参加した。緊急時連絡先、避難経路、備蓄品、飲料水、持ち出し書類等整備されている。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者と職員は家族的な関係でありながらも家族ではないことを自覚し、人生の先輩であることを自覚するよう心がけている。また、接遇マナー研修を年に1回実施している。	入社研修時に接遇の研修を行っている。言葉使い、挨拶、コミュニケーション、非言語コミュニケーションの大切さを実感している。また、プライバシーについて、個人情報保護の正しい知識等に関する勉強会を開催した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望やニーズを把握するために、積極的にコミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、入浴はご本人の意向を尊重し、可能な限りご本人のペースに合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は季節感に合わせたものをご用意頂くようご家族に依頼している。化粧品などは馴染みの物をご利用されるよう支援している。ご自分で髭剃りが難しいかたは、介助にて行われている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒に行っている。食べ物にアレルギーがある場合は代替メニューをご用意している。月に3日、手作りの食事の日を設け、事前に食べたいものを伺って、お好きなものを提供している。	利用者は小鉢の盛りつけや食器洗いなど、できる範囲で手伝っている。月3回の食レクの日は、何が食べたいか希望を募り、かに鍋にするなど、利用者の楽しみの日となっている。	五感に訴える美味しそうな匂いやまな板の音、季節を感じる食材等に触れる機会がもう少し増えることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居面談時の食事アセスメントで、食生活の習慣を把握している。また、食分量、水分量はそのつど記録し、少ない場合は十分な量の摂取を促すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕に口腔ケアを実施している。また、年に2回歯科検診を実施している。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居面談時の排泄アセスメントで、排泄生活の習慣を把握している。日頃の様子を観察した上でなるべくトイレで排泄できるよう援助している。	入所当初は、排せつの失敗におむつで対応していたが、利用者の排泄パターンを読み取り、おむつからリハビリパンツ、自己パンツへと自立支援を行った。便秘対策として、訪問看護と連携して、体操、カルピス飲料、ホットパック等多様な方法で自然排便を促すよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、オリゴ糖を提供するなど食べ物の工夫をし、ホットパックでお腹を暖めたり、散歩するなど運動も勧めている。また3日以上排便がない場合は、下剤を使用してコントロールしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限りご本人の意向やペースに合わせた入浴をご提案している。	入浴は、曜日や時間にとらわれず、個人の意思を尊重している。入浴時には、重介護度の利用者も湯船に浸かることができるよう、スライドボードや2人介助で支援している。冬場、乾燥肌の方には沐浴剤を使用するほか、泡石けん等での洗体方法を探りいれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居面談時の睡眠アセスメントで、睡眠の習慣を把握し、習慣に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個人別に分けた上で1冊にまとめ、薬の性質についてすぐに確認できるようにしている。また不明な点があれば提携薬局に気軽に相談できる関係にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことを理解し、役割を担って頂いている。また個別の趣味を把握し、趣味に取り組んで頂けるような環境を作っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	普段の生活中からご入居者様が行きたいと言われていた、明石公園の菊花展、健康公園のお花見、ルミナリエに行った。また、日常的には職員と散歩や買い物に行っている。	毎月の外出の日を利用者は楽しみにしている。ファミレスに行った時は食の細い利用者もよく食された。個別で近所の喫茶店やスーパーに買い物、車いすでも近くのコープまで行ったり、おにぎりを作って、平磯公園まで散歩に出かけたりしている。	寒い季節は外出回数が減る傾向がありますが、事業所周辺の散歩など外の空気を少しでも取り入れる工夫を期待します。

自己評価および第三者評価結果

まんでん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の自由に使える金銭を所持して頂き、ご自身で支払いをして頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りを希望される方はいないが、電話のやり取りについては要望に応じてかけたり取り次いだり支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、ご入居の皆様で作成したちぎり絵を飾るなど、季節感の演出に努めている。。温室時計を設置して、快適な空間作りに努めている。玄関には花の鉢植えを置き、明るい雰囲気を出している	玄関先には近隣住民の方が鉢植えのポランテアで季節の花々を飾り、利用者も一緒になって水やりを楽しんでいる。フロアでソファ等に座り、会話を楽しんだり、TVを見たりと、利用者の寛ぎの空間となっている。壁には貼り絵の作品や外出時の笑顔の写真で飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にソファを設置し、リビングの中心から少し離れた所で自由にお過ごし頂けるようになっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、寝具類や、家で飾っていたインテリアなど持ち込んで頂き、できるだけ自宅に近い環境、雰囲気を醸し出せるように配慮している。	居室の壁には塗り絵の作品や写真で飾られ、時計やメガネ、手帳、毛布や枕等馴染みの物を持ち込み、安心して休まれる。足腰が弱り、転倒の危険がある方に、クッションマットを敷いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチン内は自由に出入りして頂けるようにしている。冷蔵庫や食器棚を開けたり、お茶ポットを使用することも自由にして頂いている。		